

プランタンにほんご教室「初級日本語Ⅱ」授業実践 報告

上出, 大河
プランタンにほんご教室 : 副代表

<https://hdl.handle.net/2324/4842523>

出版情報 : オンライン授業の地平 : 2020年度の実践報告, pp.119-119, 2021-04-30. 雷音学術出版
バージョン :
権利関係 : Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives International



1. 授業の目的と概要、授業内容、成績評価の方法等

本授業は、地域在住日本語非母語話者の日本語学習をサポートすることを目的としたボランティア団体「プランタンにほんご教室」において日本語能力試験N4 相当の日本語運用能力を涵養するための科目と位置づけられている。

当初は対面での授業実施を予定していたが、緊急事態宣言の発令に伴って、教室として利用していた江東区文化センターの利用が制限されたこと、生徒から対面授業への不安の声が多く寄せられたこと等の理由から、オンライン授業への移行を余儀なくされる形となった。既習語彙、文型の定着度の確認も兼ねて各生徒の短い近況報告を求めた後に新出語彙、文型の解説を行い、生徒の反応を確認しつつ練習問題に取り組むという大まかな授業構成自体は基本的に対面時から大きな変化を加えなかったが、オンライン授業の開始にあたっては幾つかの問題に直面することとなった。

まず問題となったのは、授業時間内に家庭で機器を操作できない状況にある生徒が複数人確認されたことである。当教室に在籍する生徒の中には、パートナーの職務上の都合によって日本国内に在住しているという生徒が多数存在するため、平日の日中はパートナーの在宅ワークや子どものオンライン授業等と重なり、機器を十分に確保できないとの声が複数寄せられた。そこで、授業時間中に参加できない生徒の学習にも考慮し、リアルタイムで行う授業とは別に、資料、音声等をGoogle Classroomにアップロードすることで、充分とはいえないが授業時間外の学習にも対応しうる環境を整えることとした。

また、発音教育、聴解教育の面では、システムスペックの問題等による音声・映像の乱れが極めて重大な問題となった。一般的にはコミュニケーション上の問題を生じさせないような些細な乱れであっても、初級日本語学習者においては拍の等時性の問題等、様々な面で言語習得上の混乱を引き起こしかねない要因となる。そのため、生徒による会話文の音読については授業時

間外の課題として録音した音声データを教師に提出することを求めることとし、教師の発音を解説する際には映像の解像度や乱れを考慮し開口度や調音位置は口腔断面図等を用いて可能な限り丁寧に説明を行うこととした。

2. 今後の課題・可能性、もしくは受講生の反応等

今年度の授業実践においては、次々と現れる技術的な問題の対処に追われ、対面授業時と比較して生徒との会話の時間が減少したため、今後はブレイクアウトルームを活用して個別の質問時間を確保する等の改善策を講じる必要がある。また、実際の発話以外にも様々な非言語メッセージが言葉の解釈に影響を及ぼすという点についても、狭い画面の中の授業で教授することは困難であった。この点についても映像資料を共有する等の手法で対応していく必要があろう。

一方で、音読の音声データ提出を生徒に求めるようにして以降、それまで教室内で恥ずかしそうに小さな声を出していた生徒が人目を気にせず堂々と声を出すようになったため、より正確な訂正フィードバックが可能になった点等はこのような学習形態で得られた収穫のひとつと考えられよう。むろん、そもそも生徒が防衛的学習態度に陥らないように努めるのも日本語教師の職務であるが、防衛的学習態度に陥った生徒により的確な指導を行う点で、今後も学習者が他の学習者の視線を気にせずに発話できる空間を確保することは有効であると思われる。